

事業報告概要書（公表版）

1 基本情報					
施設名又はグループ名		指定管理者名及び団体概要			
横網町公園		(指定管理者名) 公益財団法人 東京都慰霊協会 (団体の概要)			
指定期間		設立年月日：昭和22年3月29日 事業(1) 慰霊法要の執行と、慰霊堂及び公園施設の管理運営 (2) 震災・戦災の教訓の継承と防災意識の普及啓発			
R3.4.1～R8.3.31(5年間)					
2 施設名		3 収支(単位:千円)			
横網町公園			令和7年度	令和6年度	令和5年度
		項目	金額	金額	金額
	内訳	収入 計	81,045	74,994	72,764
		指定管理料	81,045	74,994	72,764
		利用料金			
		その他収入			
		支出 計	80,565	74,320	72,627
		収支差	480	674	137
4 管理運営の概要					
<p>横網町公園の存在意義である「慰霊と伝承の公園」としての役割を基軸に、きめ細かな植栽管理と静謐な空間の維持を徹底しつつ、R5関東大震災100年、R6東京大空襲80年に続く5ヶ年事業計画の最終年度である「終戦80年」のメモリアルイヤーにふさわしい管理運営を推進した。この5年間で積み重ねてきたレガシーは、次年度以降も公園運営の根幹として継承すべき重要な財産であると考ええる。</p> <p>本年度は、天皇皇后両陛下・愛子内親王の行幸啓に伴う事前準備や当日の規制・警備対応のサポート、戦災犠牲者のご遺骨に関する報道取材への対応など、当初計画を超える幅広い業務に取り組み、特に墨田区文化振興財団と共催した「慰霊堂特別演奏会」はメモリアルイヤーの象徴的事業として大きな成果を上げ、約550名の参加者のうち半数が初来園者であったことから、公園の存在意義を広く社会に発信する契機となった。また、水彩画家・漆畑廣作の収蔵作品から戦後復興期を象徴する「闇市」シリーズに焦点を当てた特別展を開催し、図録・映像制作と合わせて来園者の関心を高めることが出来た。一方で、池の浚渫工事や児童遊具の側板交換、緊急樹木点検・剪定など、増額予算にない緊急対応も迅速に実施し、公園の安心安全を確保した。「静謐な慰霊空間の維持」と「都市公園としての機能充実」という二つの役割を高いレベルで両立させることが求められる中、5ヶ年の総仕上げとして、より多様な来園者に価値を届ける管理運営を展開した一年となった。</p>					
5 管理状況					
①維持管理					
<p>直営職員による日常の丁寧な清掃・植栽管理・施設点検を基盤とし、日本庭園の景観維持や老朽施設の補修など、静謐な空間の維持に向けた作業を計画的に進めた。特に本年度は東京都からの緊急要請による樹木点検・臨時剪定、児童遊具の側板交換、日本庭園池の浚渫工事(約6tの堆積汚泥除去)など、突発的な課題にも迅速かつ的確に対応し、公園の安全性向上に努めた。安心安全対策は慰霊の場にとって極めて重要であり、園内の危険箇所点検、樹木診断に基づく伐採・剪定、外周部歩道の安全確保など、利用者の視点に立った維持管理に努めた。また、遺骨に関する問い合わせ(37件)、取材対応(6件)、データ使用申請(38件)など、慰霊施設としての社会的責務にも丁寧に対応した。</p> <p>9月1日「震災犠牲者追悼会」、9月3日「震災犠牲者慰霊祭」など特定の団体による占用行事についても、安全対策など事前準備を徹底し、園内美化と安全確保のもと大きな混乱なく実施することが出来た。多様な利用者が安心して過ごせる環境づくりを継続しつつ、5ヶ年事業計画の最終年度として、より高い品質の維持管理を実現することが出来た。</p>					
②利用者への対応					
<p>職員の応対品質、ホスピタリティの向上を目指し、利用者からの要望や問い合わせには誠意をもって対応し、迅速に改善策を提示、対処した。その結果、来園者アンケートでは「丁寧な対応」「安心して利用できる」といった評価が多く寄せられ、利用者満足度の向上に繋がった。</p> <p>イベント事業では、5ヶ年計画の集大成として「慰霊堂特別演奏会」が大きな反響を呼び、プロ演奏家によるフォーレ《レクイエム》が慰霊堂の残響豊かな空間で演奏され、参加者から高い評価を得た。特に初来園者が多かったことは、公園の新たな利用者層の拡大に寄与した。また、漆畑廣作作品の特別展や図録・映像公開は、歴史・文化への関心を高める機会となり、来園者から好評を博した。</p> <p>さらに、従来からの自主事業や地域連携イベントも継続、予約満席となる企画が多く、リピーターの定着と新規来園者の拡大の双方を実現した。この5ヶ年を通じて育まれた「災害と防災」「慰霊と伝承」というテーマ性を継承しつつ、利用者に寄り添った対応を重ねたことで、公園の価値をより広く社会に届けた一年となった。</p>					
6 利用者アンケート結果					
実施方法：QRコード及び紙ベースによる回答					
施設名	総合満足度	植栽管理	施設の清潔さ	安全・安心	職員の対応
横網町公園	4.6	4.6	4.2	4.4	4.5
1. 総じて高く評価されており、特に以下の点が顕著である。 静けさ・清潔さ・美観、園内の落ち着いた雰囲気や清潔な環境が来園者から強く支持されている。慰霊の場としての静謐さ、震災・戦災の犠牲者を慰霊する公園としての性格が深く理解され、高い評価を得ている。職員の対応・維持管理、丁寧な接遇や日常的な管理品質が評価され、「身近で、顔の見える公園」として親しみを感じる来園者が多い。 2. 高い評価の声の一方、要望として以下の点が上げられる。 都市公園としての機能充実要望(園内設備・防災設備等)と情報発信頻度における指摘があった。イベントへの期待、慰霊の場であることを理解しつつも、都市公園としての活用やイベントの充実を望む意見も一定数あった。トイレの美観の評価とは別に、改善の声があるのは公園トイレとは別の墨田区のトイレを誤認したと推測される。 3. 総合的な評価と課題は以下の通りである。 公園の本来の使命である「歴史を伝え、犠牲者を慰霊する静謐な空間」は概ね高く評価されている。一方で、都市公園としての利便性や賑わいを求める声もあり、「慰霊のための静けさ」と「都市公園としての機能性・賑わい」の両立をバランス良く実現させるよう今後も努めていく。					
7 入園者数の状況(単位:人)					
施設名	当該年度	分析			
横網町公園	239,844	公園全体の入園者数は、昨年対比95%であったが、復興記念館については、R3年からの5ヶ年の推移はR3:19988、R4:23644、R5:38874、R6:34626、R7:34774、震災100年事業のR5年がピークとなったが、R7年度は、R6年度を若干上回り、100年事業前の実績を越えて維持しており、大空襲80年、戦後80年とメモリアルイヤーが続いたことで多くの来園者の関心を集めたものと推察される。			
(内:復興記念館)	34,774				
合 計	239,844	1			

＜公園の存在意義を高める＞ 命を尊ぶ静謐な環境づくり

関東大震災・東京大空襲・戦災による多くの犠牲者のご遺骨をお預かりする横網町公園では、「慰霊と伝承の公園」としての存在意義を高めるため、静謐で荘厳な環境の維持を最優先に取り組んだ。園路や児童遊園の清掃、日本庭園を含む植込み地の除草・剪定など、日々の丁寧な維持管理は直営職員が中心となり、年間を通して継続的に実施した。

本年度は5ヶ年事業計画の最終年度であり、終戦80年のメモリアルイヤーとして、慰霊堂・復興記念館での接遇・解説業務を慰霊協会職員と一体で推進した。特に墨田区文化振興財団と共催した「慰霊堂特別演奏会」は、フォーレ《レクイエム》が残響豊かな慰霊堂で演奏され、約550名の参加者の半数が初来園者であったこと等、公園の存在意義を広く社会に伝える象徴的な機会となった。

また、天皇皇后両陛下・愛子内親王の行幸啓に伴う事前準備や当日の規制・警備対応、戦災犠牲者のご遺骨に関する報道取材への対応など、慰霊施設としての社会的責務にも幅広く応えた。犠牲者追悼会など、各種占用集会においても、東京都・警察と連携し、来園者の安心安全を確保しながら静謐な環境維持に努めた。

これらの積み重ねにより、公園の美しい景観と慰霊堂の荘厳な雰囲気が一層評価され、戦後80年に関連して取材や遺骨照会の問い合わせ対応など、横網町公園の独自性と存在感がさらに高まった一年となった。

<公園の存在意義を高める>

私たちの使命

(Our Mission)

歴史
(Past)
教訓
(Lesson)

静謐な慰霊の空間

未来
(Future)
伝承
(Inheritance)

歴史の教訓を風化させず、次の世代へ伝承していく

過去の記憶・記録犠牲者の慰霊
(御遺骨のお預かり)
R5関東大震災「100年」
R6東京大空襲「80年」
R7終戦「80年」

多くの資料・図商品

防災：学び・気付き、来るべき災害への備え
「想い」を今に、そして次代（子供達）へ伝承

松の雪吊り

慰霊堂門松

行幸啓

＜震災・戦災の歴史を風化させない取組＞ 終戦80年メモリアルイヤーの深化

復興記念館では、昨年度に続き展示内容の見直しや展示替えを行い、特別展として水彩画家・漆畑廣作の収蔵作品から戦後復興期を象徴する「闇市」シリーズに焦点を当てた企画展を開催した。図録や映像の制作・公開も行い、美術品としてだけでなく、当時を知る貴重な資料として来館者の関心を集めた。終戦80年の節目となる本年度は、報道各社からの取材6件、データ使用申請38件、戦災犠牲者のご遺骨に関する問い合わせ37件、これらの対応を通じて、震災・戦災の歴史を社会に伝える役割を果たした。収蔵品の保存・修復については、東京都の計画に基づき慰霊堂の大型絵画の修復に協力し、文化的価値を持つ施設・作品の保全にも継続的に取り組んだ。また、鐘樓の耐震補強工事に向けた事前調査にも協力し、東日本大震災で損傷した「鷗尾」の再現を推進する中、調査研究員を中心に復元に向けて様々な依頼に協力した。本年度は5ヶ年事業計画の総仕上げとして、震災・戦災の記憶を未来へつなぐため、特別展・収蔵品修復・取材対応・自主事業イベントと連動する取組を進め、終戦80年のメモリアルイヤーにふさわしい活動を展開した。

在りし日の東京

～水彩画家 漆畑廣作の描いた戦後東京の風景～

Tokyo of the Bygone Days

Postwar Tokyo Landscapes
Painted by Watercolor Artist Hirosaku Urushibata

図録

鐘樓工事

「在りし日の東京」映像

＜公正で安全安心な公園づくり＞ 適切な維持管理の取組と緊急樹木点検対応

保育園児をはじめ多様な来園者が日常的に利用する公園として、安心安全の確保を最優先に、児童遊具点検や砂場清掃、園路の補修などを計画的に実施した。本年度は特に、樹木点検・臨時剪定、児童遊具の老朽化した側板交換、日本庭園池の水を抜かない浚渫工事（約6t堆積土処理）など、突発的な課題にも迅速に対応し、安全性の向上に努めた。園内の樹木については、東京都の要請による倒木事故未然防止の観点から緊急点検3回を含めた計5回の樹木点検を実施、剪定は枯枝だけでなく、枯枝の発生を抑制するための剪定も実施、利用者の安全確保を図った。園内施設の直営職員による補修など老朽化対応も継続、又、受動喫煙の課題には喫煙所パーテーション（JT寄贈）設置に協力し、利用者の利便性向上に努めた。特定の団体による9月1日犠牲者追悼会や9月3日大震災慰霊祭など、占用行事では事前協議を重ね、警備体制を整えた上で大きな混乱なく実施された。また、婚礼前撮り、情報誌撮影、ウォーキングイベントの占用などコンスタントに申請があり、日頃の丁寧な維持管理とホスピタリティが公園への信頼につながっていると考えられる。

遊具改修

池の浚渫

樹木点検

喫煙所

法要対応

＜質の高いサービスの提供＞
季節感と学びを深めるイベントの充実

横網町公園ならではの季節感あふれるイベントは本年度も高い人気を維持し、園内イベント10件、自主事業イベント11件を開催した。「朝顔行燈作り」「春の七草鉢植え」「苔のミニガーデン作り」「クリスマスリース作り」などの講習会は募集開始直後に満席となり、リピーターと新規参加者の双方に魅力あるイベントとなった。「秋の収穫祭どんぐり祭り」においては、園内のイチョウから採取したギンナンの無料配布を行い、直営職員の指導による木の実などを使った工作教室は、高齢者と子供達の交流の場ともなった。また横網町公園の景観にマッチした伝統的な催事として、鯉のぼり・七夕・月見・門松・雑祭りなどの季節行事は、インバウンド来園者の増加を踏まえ英語解説表示を作成するなど、多様な来園者に配慮して運営を行い、多くの来園者を楽しませた。9月と3月の大法要の前日にはお逮夜として、塔婆や七夕短冊、吊るし雛など、横網町公園ならではのお焚き上げを行い、慰霊の場として来園者の関心を集めた。



春の七草



リース



ミニガーデン



工作教室



お逮夜



朝顔行燈

＜魅力向上と利用促進のための自主事業＞
5ヶ年事業計画の集大成としての成果と次期への課題

本年度の自主事業は、現5ヶ年の最終年度として、震災・戦災の記憶と教訓を次世代へ継承することを第一義に展開した。春・秋の体験学習ツアーでは、慰霊堂・復興記念館の見学と隅田川の橋梁を巡る学びの機会を提供し、参加者の95%が満足と回答した。夏の「ぼうさいスタンプラリー」は公園協会との共催により参加施設を6か所に拡大、横網町公園での交換者数は40名（前年29名）と増加、新規来園者の創出に貢献した。首都防災ウィークでは講演会・シンポジウム・防災用品展示など多彩な企画を実施し、炎天下にも関わらず多くの来園者が集まった。さらに、終戦80年のメモリアルイヤーに合わせ、墨田区文化振興財団・新日本フィルと共催した「慰霊堂特別演奏会」は、フォーレ《レクイエム》の演奏が大きな反響を呼んだが、これは応募者約1500名から抽選で選ばれた約550名が参加し、半数が初来園者であるなど、公園の存在意義を広く発信する象徴的なイベントとなった。一方で、利用者アンケートからは「都市公園としての機能拡充」への期待も寄せられており、「静謐な慰霊の公園」と「賑わいある都市公園」という二つの役割をいかに調和させるかは、次期5ヶ年に於いても引き続き取り組んで行く。今までの5ヶ年で得た成果を検証し、100年事業や80年事業のレガシーを風化させることなく、次期5ヶ年計画へ引継ぎ、既存来園者との関係性を深化させ、更に新たな来園者との出会いの拡大を進め、横網町公園の存在意義をより高めて行く。



特別演奏会



学習ツアー



防災ウィーク

